令和４年８月１１日（木）　陸奥新報【２面】

## 大きさ13センチのガ「シンジュサン」

# 西目屋で県内初確認

## 弘大、資料館で標本展示

県内で初めて確認されたシンジュサン（同センター提供）

弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センターは10日、県内で初めて、大型のガ「シンジュサン」を西目屋村で確認したと発表した。羽を広げた大きさは13センチにもなり、県内最大級の昆虫とみられる。全国で見つかっているが本県ではこれまで記録が残っていなかった。標本は現在、弘前大資料館で開催されている企画展「蝶と蛾（が）の多様性を見よ！」で展示されている。

同センターは、２０１８年度から白神山地に生息するガ類の調査を行っており、これまで県内初の数十種類を含む９００種類を超えるガを確認している。

シンジュサンはヤママユガ科で羽は茶色、三日月状の模様があるのが特徴で、沖縄県から北海道まで全国で見つかっているが、北東北では、ゼロだった本県を含め報告が少ないという。今回の個体は雄で7月24日早朝、西目屋村内で見つかった。同センター長の中村剛之教授は「これほど大きいものが見つからないでいたということは、まだまだ他にも分かっていないことがたくさんあるということ」と話す。

9月24日まで開いている弘大資料館企画展ではこのほか、世界のチョウや、白神山地に生息するガの標本４０００点近くを見ることができる。（西尾瑛）

上記の画像は，当該ページに限って”陸奥新報”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。